



連合愛知

- ・ 労災の防止
- ・ 快適な職場
- ・ 心身の健康

# センターだより

愛知県勤労者安全衛生研究センター  
〒456-0002  
名古屋熱田区金山町1丁目14-18  
ワークライフプラザれあろ3F  
TEL(052)684-0003  
FAX(052)684-0303  
連合愛知ホームページからも閲覧できます  
<http://www.rengo-aichi.or.jp>

## 安全衛生活動のさらなる充実をめざす ～安全衛生センター第29回総会を開催～



12月1日、ワークライフプラザれあろ6階大会議室において、連合愛知安全衛生センター「第29回総会」を開催した。代議員、傍聴者、センター役員計66名が出席し、1年間の取り組み報告と、向こう1年間の取り組み方針等について審議いただいた。

冒頭、可知理事長からは、労働災害のない職場づくりは、人材の確保や企業活動の活性化にも大きく寄与するもので、行政と企業労使の継続した努力が必要であること、また、心身の健康における近年の社会的問題に触れ、今ある制度の活用面での課題や、多様性実現のための環境整備の必要性について挨拶があった。

来賓の連合愛知 佐々木会長からは、「組合員の安全と健康を守ることは労働組合として最も重要な取り組みである。人手不足や長時間労働など、労働者を取り巻く厳しい環境下において、センターのさらなる取り組みの充実を」と激励があり、愛知労働局の三好安全課長からは、最新の愛知県下の労災状況について報告があり、「『第12次労働災害防止推進計画』は最終年を迎え、ついに残り1ヵ月となったが、残念ながら目標達成は困難な状況にある。年末の繁忙期を迎える中、諦めることなく、労災防止にむけた取り組みを積極的に進めてほしい」と要請があった。

続いて事務局より、2017年度活動計画・決算報告、会計監査報告および平成28年度労働保険事務組合関係報告を一括して行い、確認された。



中川議長

議案については、①2017年度活動計画(案) ②2017年度予算(案) ③2017～2018年度役員(案)について提案を行い、総会議長の中川代議員(JEC連合)のスムーズな議事進行により、すべて満場一致で承認・決定された。

最後に近藤副理事長から、安全最優先を意識づけさせるための「ご安全に!」という言葉が投げかけられ、二度と労働災害を起こさないという意識を全員で共有し、総会を終えた。

安全衛生センターは、総会で承認された活動計画に基づき、各構成組織・加盟組合の安全衛生の取り組みの推進につながる活動を展開していくので、今後ご理解・ご協力をお願いしたい。

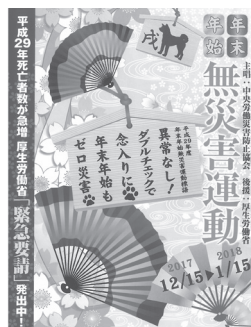
12月1日、ワークライフプラザれあろ6階大会議室において、連合愛知安全衛生センター「第29回総会」を開催した。代議員、傍聴者、センター役員計66名が出席し、1年間の取り組み報告と、向こう1年間の取り組み方針等について審議いただいた。



佐々木会長

## 12月15日～1月15日は 年末年始無災害運動実施期間

異常なし! ダブルチェックで念入りに  
年末年始もゼロ災害



年末年始は、慌ただしい中での大掃除や機械設備の保守点検・始動等の作業が多くなるほか、積雪や凍結による転倒などの危険が増す。また、日頃の確認作業が不十分になったり、怠ったりすることでミスや事故が生じる可能性も高まる。

### 各事業場や職場で取り組んでほしい事項

- ① 経営トップによる安全衛生方針の決意表明
- ② リスクアセスメントおよび労働安全衛生マネジメントシステムの導入・定着
- ③ メンタルヘルス対策・過重労働対策の推進
- ④ KY活動を活用した非正常作業における労災防止対策の徹底
- ⑤ 機械設備に係る一斉検査・作業前点検の実施
- ⑥ 火気管理の徹底
- ⑦ 安全保護具・労働衛生保護具の点検・整備
- ⑧ はさまれ・巻き込まれ災害の防止対策の徹底
- ⑨ 交通労働災害防止対策の推進
- ⑩ 安全衛生パトロールの実施
- ⑪ 化学物質管理の徹底
- ⑫ 年末時期の大掃除等を契機とした5Sの徹底
- ⑬ 年始時期の作業再開時の安全確認の徹底
- ⑭ 転倒防止・腰痛予防・受動喫煙防止対策の推進
- ⑮ 健康的な生活習慣に関する健康指導の実施
- ⑯ インフルエンザ等感染症予防対策の徹底
- ⑰ 自然災害等に伴う復旧・復興工事等における労災防止対策 など

## 安全衛生クイズ

基本編 8

事業者は、総括安全衛生管理者が旅行、疾病、事故その他やむを得ない事由により職務を行うことができないときは、【 】を選任しなければならない。

- ア. 作業主任者
- イ. 統括安全衛生責任者
- ウ. 代理者

(労働調査会「労働安全衛生広報(別冊)」より) ※答えと解説は裏面



## HIV・エイズへの正しい理解を！ ～2017世界エイズデーフォーラムを開催～

12月1日の世界エイズデーに合わせ、安全衛生センター総会の前に「2017世界エイズデーフォーラム」を開催した。今回は、HIV陽性者として、自立した当たり前の生活ができる社会をめざす活動をしている、NPO法人 日本HIV陽性者ネットワーク ジャンププラス代表理事の高久陽介氏に、「当事者の視点から見たHIV・エイズの「いま」と題して講演いただいた。

当事者である高久氏の生の声は、参加者の心に響くものであった。

HIV・エイズについては、まだ誤解や偏見があるが、感染力はきわめて弱く、HIV陽性者でも、感染の早期治療と治療の継続によって、感染していない人と同等の生活が送れ、働き続けることも可能である。

私たちは、HIV・エイズを正しく理解し、共に働く仲間が、感染を理由に不利益を受けることのない職場や社会の実現をめざしていかなければならないことを改めて認識させられた。



## 愛知労働局に対し労働者側から意見提起 ～第2回愛知労働局安全衛生労使専門家会議～

11月13日、名古屋合同庁舎内大会議室で「平成29年度第2回愛知労働局安全衛生労使専門家会議」が開催され、労働者側委員として連合愛知から4名が出席した。

冒頭、小城労働基準部長より、「日頃の労働災害防止の取り組みに感謝する。しかし、『第12次労働災害防止推進計画』の目標達成は厳しい状況にある。本日の会議では、『第13次労働災害防止推進計画』の策定にむけて、方向性や取り組み内容について、労使と有識者の皆様から忌憚のない意見をいただきたい」と挨拶があった。

安全課からは『第12次労働災害防止推進計画』の進捗状況について、健康課からは、ストレスチェック制度の実施状況についてそれぞれ報告があり、各委員から意見が出された。

労働災害については、愛知労働局独自の『論理的な安全衛生管理』の取り組みを推進しており、平成28年度からは、労働災害を発生させた事業場に対し検証結果報告書の提出をさせたところ、提出事業場での労災減少に効果があったとの報告もあった。これまでの取り組みの効果を検証し、『第13次労働災害防止推進計画』に生かしていくことが必要である。



連合愛知の委員からは、ストレスチェックの結果を踏まえた職場環境の改善好事例をPRし、横展開していただくこと、個人情報取り扱いの難しさはあるが、ストレスチェックの結果を踏まえ、各企業の安全衛生委員会等で職場環境の改善にむけた対応策を議論するよう、労働局から積極的に促していただくよう意見提起した。

## 全国産業安全衛生大会 | N神戸 報告



### 作業者の意見を聴く ことの重要性を認識

基幹労連  
愛知製鋼労働組合  
西川 智雄

11月8日～10日に神戸で行われた「第76回全国産業安全衛生大会」に参加し、8つの分科会の中から、安全管理活動分科会の報告を重点に聴講した。

株UACJ名古屋製造所の『会話から始まる真因追求への歩み』では、約4年半の間、無災害労働時間を積み重ねていたため、災害は他所、他社の出来事と軽視していたと自らを厳しい目で見つめ直す真摯な姿勢と、災害防止へ「本音」で取り組む熱い想いを感じた。水平展開のしくみを、①現地現物で、②作業者との「本音トーク」を実施し、③作業者を交えて全員で対策の検討を行うことに改善する内容であった。

事例報告『炉の垢取り作業時に縁(へり)に乗り、誤って炉内に転落した』では、課長以下全統括が作業者に本気で向き合い、意見を聴く姿勢で取り組んだ結果、作業員から「本音を言うと怒られるかも…、叱られるかも…」、「力が入り、体が安定するため、縁に足を掛けていた、作業は怖いです」などの本音を引き出し、転落防止バー設置と安全帯着用対策に結びつけた。

私は、この発表から改めて、作業者の意見を聴くことの重要性を感じた。会議等で改善事例報告を受ける機会があるが、これからは「作業者の意見を取り入れたのか？意識はどう変わったのか？」など、毎日作業に取り組み、同時に災害リスクに直面している作業者の意見確認を実践し、災害のない安全な職場づくりに向けて取り組んでいきたい。

### 他の発表事例で印象に残ったフレーズ

いくら設備の安全対策システムを改善しても  
最後は人間の行動で成否が決まる

安全は、ただの優先順位ではなく  
中心となる価値

守ることを決めて決めたことを守る  
風土づくり

安全に第一も第二もない

### 安全衛生クイズ基本編 ⑧

#### 【答え】ウ

<労働安全衛生規則第3条>

選任が必要なのは代理者。代理者の資格については特に定めはないが、総括安全衛生管理者の職務を行えるだけの権限を持った方がふさわしいと言える。